

# 学校保健

後藤美由紀・伊藤友美子

## I はじめに

東雲小学校・東雲中学校では、平成27年度より「『グローバル時代をきりひらく資質・能力』を培う教育の創造」を研究テーマに設定し、実践研究を進めている。本研究における「グローバル時代をきりひらく資質・能力」は、「さまざまな文化や価値観を理解し多様性を認め合いながら自分の考えを明確にして問題を解決する力」と本校では定義している（広島大学附属東雲小学校・東雲中学校、2015）。

平成27年度は協働的問題解決に関する理論や先行研究について学び、協働的問題解決には学習への主体性、協働性、多様性が重要であるという知見を得た。また、各教科においては「グローバル時代をきりひらく資質・能力」を育成するための協働的問題解決を実現する授業を目指して実践を行った（広島大学附属東雲小学校・東雲中学校、2016）。

学校保健においては、本校がめざす資質・能力を培う教育活動の基盤形成の一助を担うこととする目的とし、数年来キーワードとしてきた「自己意識」と併せて、「他者とのかかわり」という視点も加え研究を進めてきた。昨年度の研究の概要を以下に示す。

### <小学校>

小学校6年生単式学級の児童に質問紙調査を行い、コミュニケーション傾向をアサーションの視点から把握した。また5・6年生単式学級の児童を対象に、自己理解やアサーションなどをテーマとした保健指導を実施し、コミュニケーションに関する支援・指導の在り方について検討した。

自己理解のためのエゴグラムに対する児童の感想やワークシートへの記述の分析などから、児童がコミュニケーションスキルの必要性を感じたり、行動変容へのモチベーションを高めたりする点において上記の授業実践は有効であったと考えられる。

### <中学校>

中学校第1・2学年生徒（特別支援学級を除く）に質問紙調査を行い、中学生のコミュニケーション傾向をアサーションの視点から把握すること、ならびに学業における自己効力感がコミュニケーションに与える影響について検証を行った。

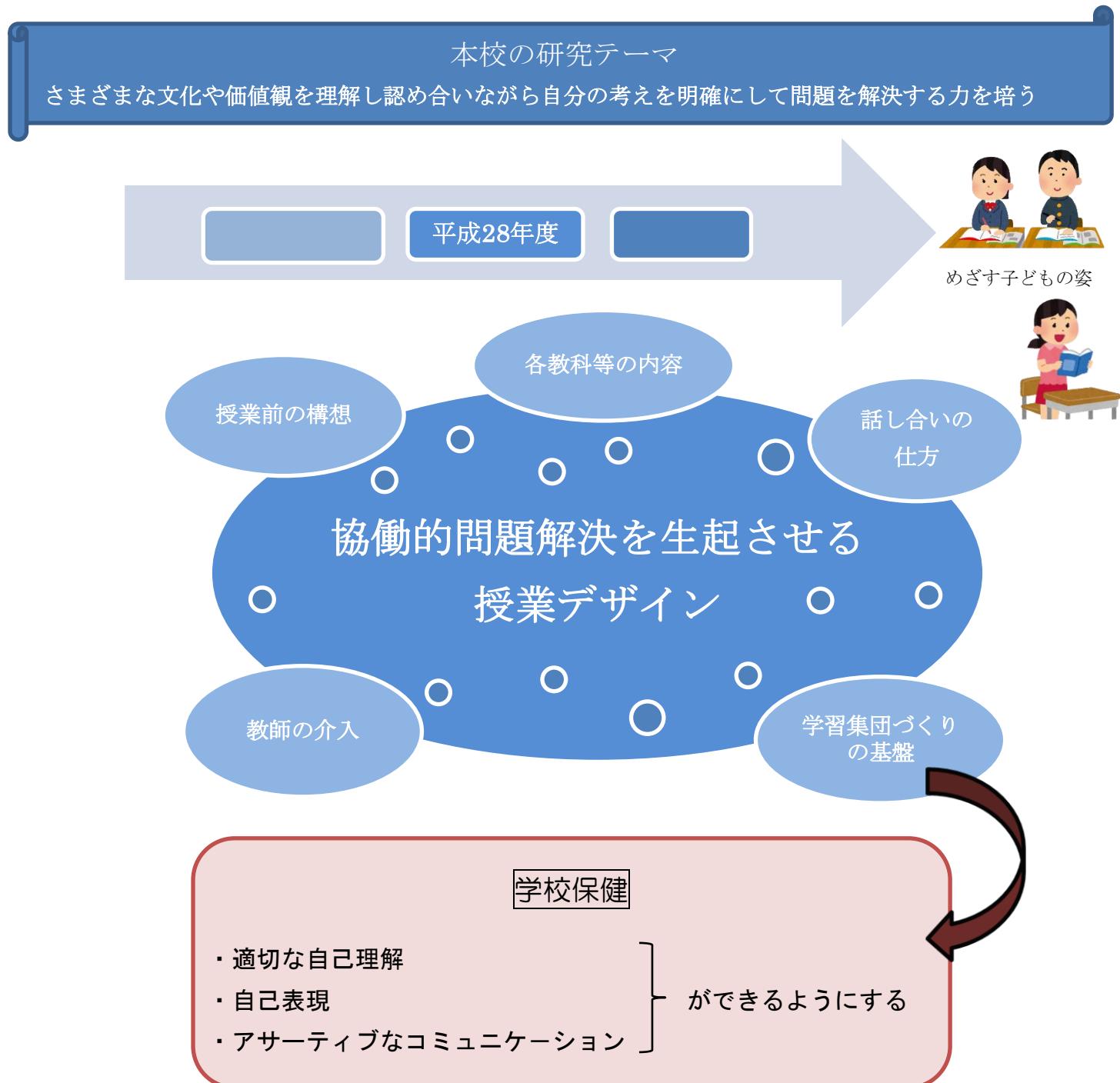
質問紙調査の結果、生徒の学業における自己効力感とコミュニケーション傾向には関連があり、特に、実際に自分ができているかどうか（習熟に対する自己効力感）以上に、他者から見てできているかどうか（承認に対する自己効力感）が生徒の自己評価を大きく左右しており、生徒が日頃から周りの他者を強く意識していることがわかった。

平成28年度は、前年度の研究成果をもとに①各教科等において、「グローバル時代をきりひらく資質・能力」を育成する協働的問題解決の授業を実践的に模索する②小・中学校全体として、「グローバル時代をきりひらく資質・能力」を育成する協働的問題解決の授業デザインの視点を提案することを目的とし、

研究を進めている。平成28年度前期には、これまでの授業実践から考えられた授業デザインを授業前の構想、対話の仕方、教師の介入、各教科等の内容、学級集団づくりの基盤という5つの視点に分類した。

学校保健においては、前年度と同様の立場から、児童・生徒が学習場面をはじめ、日常生活の様々な他者とのかかわりにおいて主体性、協働性、多様性を表出できることをめざしている。さらに、研究テーマとの関わりを図1のように捉えた。授業デザインの一つとして本校が考えている「学級集団づくりの基盤」に着目し、授業実践を通して協働的問題解決を生起させる授業の基盤となる学習環境デザインについて模索することにより、研究の深化を図る。

図1 本校の研究テーマと学校保健の関わり



## **II 本年度の研究計画**

### **1 研究の目的**

協働的問題解決を生起させる授業の基盤となる学習環境デザインを模索する。

### **2 研究の方法**

- (1) 自己のコミュニケーション傾向について認識したり改善の必要性について考えたりする授業を行うことによる児童の変容を見取る。(小)
- (2) 自身についてふり返ったり、他者の考えに触れたりすることにより、生徒がありのままの自己と向き合い、表現する機会をつくる。授業を通じて、非主張的な生徒が自己表現しやすい学習環境デザインについて模索する。(中)

### **3 研究会当日の授業**

小学校 5 年

「自分も相手も気持ちのよい伝え方を覚えよう」

中学校 1 年

「自己表現をしよう！～自己を多くの視点で捉えるために～」

#### **《引用・参考文献》**

広島大学附属東雲小学校・東雲中学校 (2015) 「「グローバル時代をきりひらく資質・能力」を培う教育の創造—協働的問題解決ができる子どもの育成をめざして—」『東雲教育研究会実施要項』

広島大学附属東雲小学校・東雲中学校 (2016) 「「グローバル時代をきりひらく資質・能力」を培う教育の創造 2—協働的問題解決ができる子どもの育成をめざして—」『東雲教育研究会実施要項』